

Sporting Regulations

KTaikyu GTaikyu

Tokai Series 2011



www.gt-produce.com

【大会規則】

昨年からの変更点は下線が引いてあります。

開催日程	K耐久				
		開催日時	決勝時間	募集台数	申込受付期間
	第1戦	3月20日(日)	3h	38台	2月14日～2月28日
	第2戦	5月15日(日)	3h	38台	4月11日～4月25日
	第3戦	7月17日(日)	4h	38台	6月13日～6月27日
	第4戦	9月25日(日)	3h	38台	8月22日～9月5日
	第5戦	11月20日(日)	3h	38台	10月17日～10月31日
	開催場所は全て「スパ西浦モーターパーク」 午前、午後の振り分けは公式通知にて発表となります				
	GT耐久				
		開催日時	決勝時間	募集台数	申込受付期間
	第1戦	3月20日(日)	3h	32台	2月14日～2月28日
	第2戦	5月15日(日)	3h	32台	4月11日～4月25日
	第3戦	7月17日(日)	3h	32台	6月13日～6月27日
	第4戦	9月25日(日)	4h	32台	8月22日～9月5日
	第5戦	11月20日(日)	3h	32台	10月17日～10月31日
	開催場所は全て「スパ西浦モーターパーク」 午前、午後の振り分けは公式通知にて発表となります				
参加資格	1. 有効な普通自動車免許の所有者であること。 2. 主催者が認めるドライバー。				
参加申込	1. 申込受付期間 上記、開催日程の欄に記載された申込受付期間内に下記の要領で申し込むこと。 2. 申込方法 必要書類(「参加申込書」と「車両申告書」)に必要事項を記載の上、下記の「GT走行会運営事務局」まで郵送、FAX、またはe-mailで送付すること。 必要書類は公式HPよりダウンロードするか、事務局までご請求下さい。 『申込先』 〒438-0073 静岡県磐田市二之宮東14-17 (株)GT CAR プロデュース内「GT走行会運営事務局」宛て FAX : 0538-37-6678 e-mail : info@gt-produce.com 参加費用を参加申込書送付から3日以内に銀行振込で送金すること。 『振込先』 浜松信用金庫 磐田支店 普通 098186 口座名義 カ)ジーティーカープロデュース チーム代表者と別名義で入金する場合は必ず事務局までその旨を伝えること 振込手数料は参加者負担とする 3. 申し込みの成立 必要書類到着と、参加費用の入金をもって申し込みが成立する。募集台数に達した場合は、正式申し込みの順にて受理する。 4. キャンセル 申込期間中のキャンセルは事務手数料1,000円を差し引き返金する。 受理書発送後のキャンセルはできない。 指定ピットの位置は、申し込み順に1コーナー側から割り振る。 他チームと隣り合わせのピットを希望する場合は申し込み時に申請すること。この場合、後から申し込んだチームの順番のピット位置となる。				
参加費用	1. 3時間耐久: ロールケージ装着車両・・・46,000円(税込) / ロールケージ未装着車両・・・51,000円(税込) 2. 4時間耐久: ロールケージ装着車両・・・59,000円(税込) / ロールケージ未装着車両・・・64,000円(税込) ロールケージの装着を強く推進するため、装着の有無で参加費の差を設ける ロールケージ装着義務付けのクラスは、未装着では参加できない				
参加人数	全戦とも1チームあたり2～6名までのドライバーとする。 登録してあるドライバーであれば運転の順番・回数は自由とする				

昨年からの変更点には下線が引いてあります。

クラス分け	1) K耐久(軽自動車) 東海シリーズ KNNクラス…軽自動車NA のノーマルクラス KNCクラス…軽自動車NA のクローズドクラス KNOクラス…軽自動車NA のオープンクラス KTCクラス…軽自動車ターボ のクローズドクラス KTOクラス…軽自動車ターボ のオープンクラス KWTクラス…軽自動車ワゴン &トラックのオープンクラス 新規格軽自動車は「-1分」の義務ピット時間ハンディー減算とする。(KWTクラスは除く) KWTクラスは「-2分」の義務ピット時間ハンディー減算とする。 KWTクラス該当車種は大会規則最後尾の注1を参照。 2) GT耐久(普通車) 東海シリーズ 注2 一部車種を除く(大会規則最後尾の別表参照) 1+2クラス…以下に記した「1クラス」と「2クラス」をまとめて1つのクラスとする ・1クラス該当車:「1000cc 以下のNA車」 ・2クラス該当車:「1001～1500cc のNA車」と「1200cc 以下のターボ車」 このクラスはオープン、クローズドとも同一クラスとする。 ただしオープンクラス該当車は「+1分」の義務ピット時間ハンディー加算とする。 1クラス該当車については、「-3分」の義務ピット時間ハンディー減算とする。 3Cクラス…「1501～2000cc のNAと1201～1500cc のターボ車」のクローズドクラス 3Oクラス…「1501～2000cc のNAと1201～1500cc のターボ車」のオープンクラス 4クラス…「2001～3500cc のNAと1501～2600cc のターボ車」 このクラスはオープン、クローズドとも同一クラスとする。 ただしオープンクラス該当車は「+1分」の義務ピット時間ハンディー加算とする。 【補足事項】 全クラスともナンバープレート(車検)の有無は問わない。 ローターリーについては、2ローターNAは3クラス、2ローターターボは4クラスとする。 オープン、クローズドの区分けについては車両規則を確認のこと。 スーパーチャージャーもターボと同解釈とする。
フリー走行	・フリー走行では、開始から3分の2ほどの時間はタイム計測を行わない。 残り3分の1程度の時間でタイム計測を行い、この時のベストタイム順で決勝グリッドに並ぶ。 ・フリー走行におけるタイム計測の時間帯については、公式通知のタイムスケジュールで発表される。 ・フリー走行のピットイン回数、およびドライバー選定は自由。 ・フリー走行時は助手席への同乗走行が認められる。ただし同乗者はドライバーと同一の装備で乗車すること。 ・フリー走行後、決勝までの間の給油は許される。
グリッド順	・フリー走行で実施されたタイム計測の結果順に、決勝グリッドに並ぶ。 ・フリー走行でタイムを残せなかった場合は、タイムの残った最下位の車両の後ろのグリッドに並ぶこととする。 ・グリッドは2×2を使用する。1位のチームが最前列右側、2位のチームが最前列左側、3位のチームが2列目右側、……、という順番となる。
スタート方法	ピットロードエンドシグナルが青になったら、コースイン後1周回ってグリッドに着く ピットロードエンドシグナルは青になってから約2分後に赤となる。この間にコースイン出来なかった場合はピットスタートとなる。ピットスタートの場合はグリッドスタートの車両よりも(フォーメーションラップが無い分)周回数が1周少なくなることを了承しなければならない。 チーム員はグリッド上に出て自チーム車を誘導すること。 グリッド上ではリバースギヤは絶対に使用してはいけない(必要時は人力でバックさせること) 3分前ボード提示…ドライバー、オフィシャルを除く全ての者はコース上から退去する レーススタートまでの間はプラットホームおよびピットロードへの入場は禁止となる 1分前ボード提示…ドライバーは車両に着座した状態でエンジンを始動する フォーメーション開始…メインポストでグリーンフラッグが振られたら、セーフティーカーに先導されながら順列を保ったまま1周する。 フォーメーションラップ中は前車との間隔を5車身以内に保たなければならない。 セーフティーカーがピットロードに入ったらローリングスタートでレース開始となる。ただし、前車を追い越して良いのは管制塔前の計測ラインから先となる。
ピットイン	ピットインは「義務ピットイン」と「作業ピットイン」に分けられる。 1)「義務ピットイン」について ・以下の回数の義務ピットインを行わなければならない。 3時間耐久の場合…3回 4時間耐久の場合…4回 ・「義務ピットイン」では、どんな軽微な作業でも必ず基準時間停止しなければならない。 ・「義務ピットイン」時間は4分を基準時間とし、各種ハンディータイムで加減算される。 ・ハンディータイムについては、大会規則の「ハンディータイム」の項を参照のこと。

	・『義務ピットイン』時の、ピットストップ時間の計り方は以下の通りとする。 ピットロードに入って管制塔前を通過したら左レーンに入り21番ピット前で停止する。 21番ピット前で“PITイン時刻”を書いた「タイムカード」をオフィシャルが発行し、ピットイン車両に渡す。 「タイムカード」を受け取らなかった場合は「義務ピットイン」回数としてカウントされない 指定ピットに移動して、給油、ピット作業を行う。(指定ピット場所は受理書送付と同時に案内) ピットロードにいるPIT監視オフィシャルに「タイムカード」を渡しスタート指示を待つ。 “PITイン時刻”からカウントしてPITストップ時間が経過したら、指定ピットからスタートすることが出来る。 2)『作業ピットイン』について ・『作業ピットイン』時は右側のピットロードを通行し、21番ピット前で「タイムカード」を受け取らず指定ピットに向かうこと。 ・『作業ピットイン』の回数は自由とし、ピットストップ時間も自由とする。 ・『作業ピットイン』時に出来る作業内容は、「義務ピットイン」と同じである。 ・ピットハンディータイムは、作業ピットイン時には関係ない。 3)全般 ・ピットには水の入ったバケツを置いておくこと。 ・ピットレーンではリバースギヤは絶対に使用してはいけない(人力でバックさせること) ・ピットストップ時間に余裕がある場合、人力で車両を動かして(退出し易い)車両の向きに変えることは許される。ただし指定ピット付近から移動してはいけない。 ・作業が長時間に及ぶ場合は屋根下ピットに入れて作業すること。 ・ピットを水浸しにするような行為は、出火時等の緊急時を除いては慎むこと。 (ラジエター、タイヤ等を冷却したい場合は噴霧器を使用すること)																														
ハンディータイム	ハンディータイムは毎回の「義務ピットイン基準時間(4分)」に加減算される。 ■ プラスハンディー <table><tr><td></td><td>K耐久</td><td>GT耐久</td></tr><tr><td>1+2クラスの「オープンクラス」該当車両</td><td>...</td><td>+1分</td></tr><tr><td>4クラスの「オープンクラス」該当車両</td><td>...</td><td>+1分</td></tr><tr><td>気筒容積アップ</td><td>+30秒</td><td>...</td></tr><tr><td>オーバーフェンダー(片側1cm以上)</td><td>+30秒</td><td>...</td></tr></table> ■ マイナスハンディー <table><tr><td></td><td>K耐久</td><td>GT耐久</td></tr><tr><td>KWTクラス車両</td><td>-2分</td><td>...</td></tr><tr><td>新規格軽自動車(KWTクラスは除く)</td><td>-1分</td><td>...</td></tr><tr><td>1+2クラスの「1クラス」該当車両</td><td>...</td><td>-3分</td></tr><tr><td>A/T車、CVT車</td><td>-30秒</td><td>-30秒</td></tr></table>		K耐久	GT耐久	1+2クラスの「オープンクラス」該当車両	...	+1分	4クラスの「オープンクラス」該当車両	...	+1分	気筒容積アップ	+30秒	...	オーバーフェンダー(片側1cm以上)	+30秒	...		K耐久	GT耐久	KWTクラス車両	-2分	...	新規格軽自動車(KWTクラスは除く)	-1分	...	1+2クラスの「1クラス」該当車両	...	-3分	A/T車、CVT車	-30秒	-30秒
	K耐久	GT耐久																													
1+2クラスの「オープンクラス」該当車両	...	+1分																													
4クラスの「オープンクラス」該当車両	...	+1分																													
気筒容積アップ	+30秒	...																													
オーバーフェンダー(片側1cm以上)	+30秒	...																													
	K耐久	GT耐久																													
KWTクラス車両	-2分	...																													
新規格軽自動車(KWTクラスは除く)	-1分	...																													
1+2クラスの「1クラス」該当車両	...	-3分																													
A/T車、CVT車	-30秒	-30秒																													
給油	・耐久走行中の給油は、必ず指定ピット前で行うこと。 ・給油者は給油作業前に、ピットに設置された静電気除去シートに触ること。 ・給油は金属製のガソリン携行缶を必ず使用すること。 樹脂製のポリタンクの使用は禁止 ・1度の給油は20Lまでとする。 ・給油時は給油している横で消火器を持った消火要員を1名待機させ、消火器のノズルを給油口に向けて構えること。 ・給油者および消火要員はフルフェイスヘルメット、グローブ、長袖長ズボンを装着のこと。 (ジェットヘルの場合は耐火性フェイスマスクを着用すること) ・給油中はエンジンを必ず切ること。 ・給油中はドライバー交代(ベルト調整含む)以外の作業は全て禁止する。 (空気圧チェック、窓拭き、車載ビデオのバッテリー交換等も全て禁止) ・ピット用消火器は車載用とは別に、粉末重量2.0Kg以上のものを1チームに1本持参すること。 給油作業の無いチームも消火器は必須とする。																														
赤旗時の運営方法	1)赤旗提示から停車までの流れ ・競技中断の必要があるアクシデントが発生した場合は赤旗を提示してレースを一時中断する。 ・赤旗提示中は追い越し禁止となる。 ・赤旗が全ポストで提示されたら、全競技車両は追突に注意しながらすみやかに速度を落とし、スロー走行に移行すること。 ・全車両はメインポスト横のスタートラインを先頭に、右側に寄ってストレート上に停車すること。 ・ただしメインポストで初めて赤旗を見た車両は、追突を防止するためにもう1周回ってから停車すること。 ・「赤旗」(「赤信号点滅」)が出たら、競技車両は以下の2通りの停止選択ができる。 コース上に残って競技再開を待つ方法 PITインしてピット又はピットレーンで競技再開を待つ方法 (ただし赤旗提示を見てPITインした車両は全て「作業ピットイン」扱いとなり「義務ピットイン」にはならないので注意すること) 2)赤旗時のピットインについて																														

	・赤旗提示を見てPITインした車両は、全て「作業ピットイン」扱いとなるためタイムカードは配らない。赤旗を見てピットインしたか否かは、8番ポストと管制塔にて確認・判断する。 - 赤旗提示前に既にピットインしていた義務ピットイン車両は、そのまま義務ピットインとしてカウントされる。 ・義務ピットイン扱いが再開するのは、競技再開後にセーフティカー（以下SC）がピットインした直後の車両からとなる。 3) 停車から競技再開までの流れ ・ストレート上で待機している車両は、競技中断中にオフィシャルが指示し、暫定トップ車両を先頭に入れ替え（頭出し）を行う。 ・コース上で暫定トップ車両よりも前に停車していた車は、SCが先導して1周回り隊列の後方に移動する。（このタイミングで作業ピットインすることも可能である） ・競技再開時はSCが隊列を連れて先導し、最終コーナーに差し掛かったところでSCがピットインして競技再開となる。この時前車を追い越してよいのは、管制塔前の計測ラインから先とする。 ・赤旗中断中にピットロードで待機していた車両については、SCがピットインした後に隊列が全てストレートを通過したタイミングでピットロードエンドシグナルが青となり、コースインが出来る。 4) 赤旗要素となった車両の扱い ・赤旗要素となった車両で走行に問題があると判断された場合は、車両はレッカー（もしくは自走）で洗車場に移動される。 ・赤旗要素となってレスキューを受けた車両は、結果的に走行に問題が無いような場合でもコース上の隊列に戻ることはできず、必ず一旦「指定ピット」に戻らなければならない。（この際のピットインは義務ピットイン扱いにはならない）
コースアウト時等の対処	・コースアウト又はマシントラブル等で赤旗要素となり、走行に問題があると運営側が判断した車両は、洗車場に移動される。 ・ジャリ、土を噛んでいる場合はそれを十分に落とし、トラブル箇所の確認をした上で、ピットロードへの復帰に問題が無いことが確認された後に、コースインゲートよりピットロードに戻る事が出来る。 ・赤旗要素となり洗車場に行った車両は、洗車場からピットロードに復帰する際にはいかなるタイミングであっても『義務ピットイン』は選択できない。 ・ドライバー交代および、給油作業は、必ず指定ピットで行うこと。
装備品	・ドライバーは、「ヘルメット(SNELL規格又はJIS C種が望ましい)、グローブ(自動車ドライビング用で指先まで覆うもの)、厚手の長袖と長ズボン(レーシングスーツが望ましい)、運転に適したシューズ(レーシングシューズが望ましい)」を必着のこと。 ・レーシングスーツは安全上ダブルレイヤー以上のものが望ましい。 ・走行中に袖を腕まくりすることは禁止される。
準備必須品	各チームは給油の有無に関わらず、下記の備品を必ず準備しピットに常備すること。 ・ピット用消火器(粉末重量2.0Kg以上) 車載の物とは別に準備すること ・バケツ(水を入れてピットに置いておくこと)
ゼッケン	・ゼッケンは各チームで準備すること。 ・ゼッケンは下記の4箇所に貼り付けること。 ボンネット 左右ドア リヤ ・書体はゴシック体とし、1文字の大きさは、

	<table><tr><td>5～6台</td><td>賞典</td><td>賞典</td><td>賞典</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>3～4台</td><td>賞典</td><td>賞典</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>2台以下</td><td>賞典</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> 賞典はトロフィーと副賞となる。	5～6台	賞典	賞典	賞典	—	—	—	3～4台	賞典	賞典	—	—	—	—	2台以下	賞典	—	—	—	—	—											
5～6台	賞典	賞典	賞典	—	—	—																											
3～4台	賞典	賞典	—	—	—	—																											
2台以下	賞典	—	—	—	—	—																											
シリーズポイント	・クラスごとの順位で毎戦ポイントを与え、1～5戦の合計をシリーズポイントとしシリーズ順位を付ける。 ・ポイントはクラスごとで、完走扱い車両の上位から10位までの車両に与えられる。 ・ポイントは下表の通りとする。(全戦共通) <table><tr><td>1位</td><td>20点</td><td>6位</td><td>6点</td></tr><tr><td>2位</td><td>15点</td><td>7位</td><td>4点</td></tr><tr><td>3位</td><td>12点</td><td>8位</td><td>3点</td></tr><tr><td>4位</td><td>10点</td><td>9位</td><td>2点</td></tr><tr><td>5位</td><td>8点</td><td>10位</td><td>1点</td></tr></table> ・ポイントはチームに付くものとする。よってシーズン途中で車両の変更があった場合でも、チームとしてのポイントは継続する。ただし、クラスを変更した場合はポイントの継続は出来ない。 ・合計が同ポイントの場合の順位は上位得点の回数の多い順に決定される。 なお、上位得点の回数が同一である場合は、最終戦時に獲得したポイントが高い順によって決定し、それでも決まらない場合はカウントバック方式により最終戦の前戦時、前々戦時・・・に獲得したポイントが高い順によって決定する。 ・当該レースにおいて失格した場合は、ポイントは獲得出来ない。 ・シリーズ順位上位チームは最終戦でシリーズ表彰をする。ただし各クラスの表彰対象は、1～5戦までの平均参加台数によって決まる。 <table><tr><td>平均参加台数</td><td>表彰対象台数</td></tr><tr><td>9台以上</td><td>シリーズ6位まで</td></tr><tr><td>7～8台</td><td>シリーズ4位まで</td></tr><tr><td>5～6台</td><td>シリーズ3位まで</td></tr><tr><td>3～4台</td><td>シリーズ2位まで</td></tr><tr><td>2台以下</td><td>シリーズ1位まで</td></tr></table> 平均台数は小数点以下切り上げとする。つまり平均3.1台の場合は4台と換算。	1位	20点	6位	6点	2位	15点	7位	4点	3位	12点	8位	3点	4位	10点	9位	2点	5位	8点	10位	1点	平均参加台数	表彰対象台数	9台以上	シリーズ6位まで	7～8台	シリーズ4位まで	5～6台	シリーズ3位まで	3～4台	シリーズ2位まで	2台以下	シリーズ1位まで
1位	20点	6位	6点																														
2位	15点	7位	4点																														
3位	12点	8位	3点																														
4位	10点	9位	2点																														
5位	8点	10位	1点																														
平均参加台数	表彰対象台数																																
9台以上	シリーズ6位まで																																
7～8台	シリーズ4位まで																																
5～6台	シリーズ3位まで																																
3～4台	シリーズ2位まで																																
2台以下	シリーズ1位まで																																
再車検	・走行終了後に上位車両は再車検の指示が出る場合がある。 ・再車検でオフィシャルより作業の指示が出た場合は、チーム員がその作業を行うこと。 ・再車検にてレギュレーション違反が発覚した場合は完走扱いにならない。																																
ウエイトハンディー	・1位入賞チームは次戦にて以下のウエイトハンディーを課する。(開幕戦には適用されない) ・次戦に不参加の場合は、次々戦には持ち越さない。 ・2戦以上連続で1位となった場合はさらに20Kgが加算される。ただし上限は40Kgとする。 <table><tr><td>クラスエントリー台数</td><td>前戦で1位のチーム</td><td>2戦連続1位のチーム</td></tr><tr><td>4台以上</td><td>20kg</td><td>40Kg</td></tr><tr><td>1～3台</td><td>なし</td><td>なし</td></tr></table> ・ウエイトは下記の中から選択し搭載すること 主催者が準備したウエイト(サイズ等は当事者に直接連絡) 参加者が準備したウエイト(自作品、テンパータイヤ、助手席) ・については合計で20kg(40Kg)となればよい。車検時に重量測定を実施する。 ・ウエイトの取り付け位置は助手席下の床面か、テンパータイヤスペースを推奨する。 ・のウエイトを使用するエントリーには、ウエイト寸法を予め告知するので、取付ステーと取付用ボルトナットを準備すること。 ・最低重量規定のあるクラスの車両は、ウエイトを積まない状態で最低重量を満たさなければならない。	クラスエントリー台数	前戦で1位のチーム	2戦連続1位のチーム	4台以上	20kg	40Kg	1～3台	なし	なし																							
クラスエントリー台数	前戦で1位のチーム	2戦連続1位のチーム																															
4台以上	20kg	40Kg																															
1～3台	なし	なし																															

注1) 「KWT(軽自動車ワゴン&トラック)クラス」に該当する車種は下記となる
このクラスはオープンクラスのレギュレーションが適用される。

スズキ	ワゴンR、パレット、エブリィ、キャリー、
ダイハツ	ムーヴ、タント、アトレー、ハイゼット
ホンダ	ライフ、バモス、アクティ
三菱	i(アイ)、タウンボックス、ミニキャブバン、ミニキャブトラック
その他のメーカー・車種では、以下の条件を満たすものを基本的にKWTクラスと見なす。 いわゆる軽トラック形状の車両、または メーカーカタログの全高が1600mm以上の車両 ただし下記のように例外もある	
ただし右記の車両はKWT クラスには該当しない	マイティーボーイ、アルトハッスル

該当車種についてご不明な点がございましたら事務局までご質問下さい。

注2) 以下の車両は量産箱型車と著しく性能差があると判断し、当該クラスには含まない(エントリー出来ない)ものとする。

- ・量産箱型車両とは著しく性能差があると判断される車・・・ロータスエリーゼ、エクシージ等
- ・箱型(モノコックフレーム)でない車両・・・スーパーセブン、ザウルス等
- ・その他主催者が上記に属すると判断した車両

【安全規定】(全クラス共通)

昨年からの変更点は下線が引いてあります。

ロールケージ	<u>オープンクラスの車両・・・4点式以上のロールケージを取り付けることが義務付けられる。</u> <u>(ただし段階的に6点式以上を義務付けとする予定であるので、新規に取り付ける車両は6点式以上のものを推奨する)</u> <u>以下の条件に当てはまる車両は、該当する側にドアバーを取り付けることが義務付けられる。</u> ・ <u>ドアビームを取り外した車両</u> ・ <u>合成樹脂製のドアに変更した車両</u> ・ <u>標準でドアビームが無い車両</u> クローズドクラスおよびノーマルクラスの車両・・・ロールケージの装着を強く推奨する。 オープンカーは4点式以上のロールケージを取り付けることが義務付けられる。 <u>(ただしオープンカーは段階的に6点式以上を義務付けとする予定であるので、新規に取り付ける車両は6点式以上のものを推奨する)</u> スチール製以外の脱着ルーフおよび開閉ルーフの車両はオープンカーと見なす。 オープンカーは6点式以上のロールケージを装着している場合に限り、ルーフを開けて(外して)走行することが許される。 ロールケージの装着を推進するため、装着の有無によってエントリー代に差を設ける。
シートベルト	4点式以上のシートベルトを装着することが義務付けられる。 シートベルトは確実な方法で車体に固定すること。 取り付けのためのボディー加工は可能だが、最小限にとどめること。
車載消火器	<u>全ての車両は消火器を搭載することが義務付けられる。</u> <u>仕様</u> 消火器は粉末2Kg以上の内容量が必要である。(または「別表1」に記載してある、FIA国際モータースポーツ競技規則 付則J項 第253条に認められた物を装備してもよい) <u>取付場所／取り外し</u> 消火器はドライバー等が容易に取り外せる位置に取り付けなければならない。 <u>(推奨場所は助手席の足元)</u> <u>取付方法</u> ・クラッシュした際に耐えられるように取り付けなければならない。(リベット止めは禁止) ・取付け方向は車両の前後方向中心線に対して、出来る限り直角に近い状態にすること。 ・<u>金属製ストラップの付いたワンタッチ金具の装着が認められる。(2箇所以上を推奨する)</u>
前後牽引フック	前後に牽引フックを装着することが義務付けられる。 ・牽引フックは車両を牽引して移動するのに十分な強度を有していなければならない。 ・牽引フックは車両が砂地に停車した時でも使用が可能な位置に取り付けられていなければならない。 ・黄色、オレンジ色、赤色のいずれかに塗装されていること。 ・その他の仕様についてはJAFの安全規定に合致したものを推奨する。 構造上牽引フックの装着が困難な車両は、フックの代わりに牽引ロープを装着することを特認する。 (ただし必ず事前に主催者の許可を得ること)
イグニッションスイッチ	イグニッションスイッチおよび、燃料ポンプスイッチは、その位置が容易に確認出来るよう黄色で明示しなければならない。
安全タンク	・全クラスとも安全燃料タンクの装着が許される。 ・安全燃料タンクはFIA公認品の使用を強く推薦する。 ・コレクタータンクを別に装着する場合は最大容量 2L までとする。 ・取り付けは当初の燃料タンクの位置、あるいは荷物室に取り付けることが許される。 ・漏出した燃料が車室内に滞留しない構造であること。また、荷物室に設置した場合、アルミ板等の難燃性材料による隔壁を取り付けなければならない。 その他取付けにあたっては「JAF国内競技車両規則 第4章第12条『安全燃料タンク』」の項を参考にする。
ライト	<u>ガラス製のライト類には無色透明の飛散防止テーピングを施さなければならない。</u>(プラスチックレンズは不要)
床	防音材、防振材は取り外すことが許される。 カーベットは取り外すことを推奨する。
バッテリー、オルタネーター	バッテリーおよびオルタネーターの+端子は、クラッシュ時の火災を防止するために、テーピングして絶縁すること。(純正のゴムカバーも可だが簡単にめくれないようにテープで巻くこと) オープンクラスで「ドライタイプでないバッテリー」を室内に移設する場合は、堅牢なカバーでバッテリー全面を覆うこと。
オイルキャッチタンク	ブローバイ経路を変える場合、大気開放は禁止とし、オイルキャッチタンクで受けること。 <u>オイルキャッチタンクの取り付け方法は、針金やテープなどによる暫定的なものであってはならない。</u> 容量は2L以上を推奨する。
ウインドウネット	装着は自由。(運転席に装着した場合は窓を開けて走行することが許される) ネットはレース用として販売されている物、又は同等の強度・品質・寸法を持つものに限る。 ゴルフネットやバイクのラゲッジネットなどの使用は認められない。

上記に記載の無い項目について安全対策を施す場合は、JAF国内競技車両規則を参考にする。

別表1

参考)2009 年国際モータースポーツ競技規則 付則J項 第 253 条 抜粋	
7.3.2) 認められる消火剤	AFFF、FX G-TEC、Viro3、粉末消火剤、FIAが公認したその他の消火剤
7.3.3) 消火剤の最少容量	AFFF:2.4L FX G-TEC:2.0Kg Viro3:2.0Kg Zero360:2.0Kg 粉末:2.0Kg